

おんが 作業療法物語

～こども編～



遊びを通してできることをふやそう

Aくんは、4歳のときに精神遅滞(知的障害)と診断され、
落ち着きのなさや手先の不器用さもみられたため、
作業療法を行うことになりました



Aくん、今日から
一緒に頑張ろうね!

では、まずAくんの好きなことや
苦手なことをみていきましょう

よろしく
お願いします

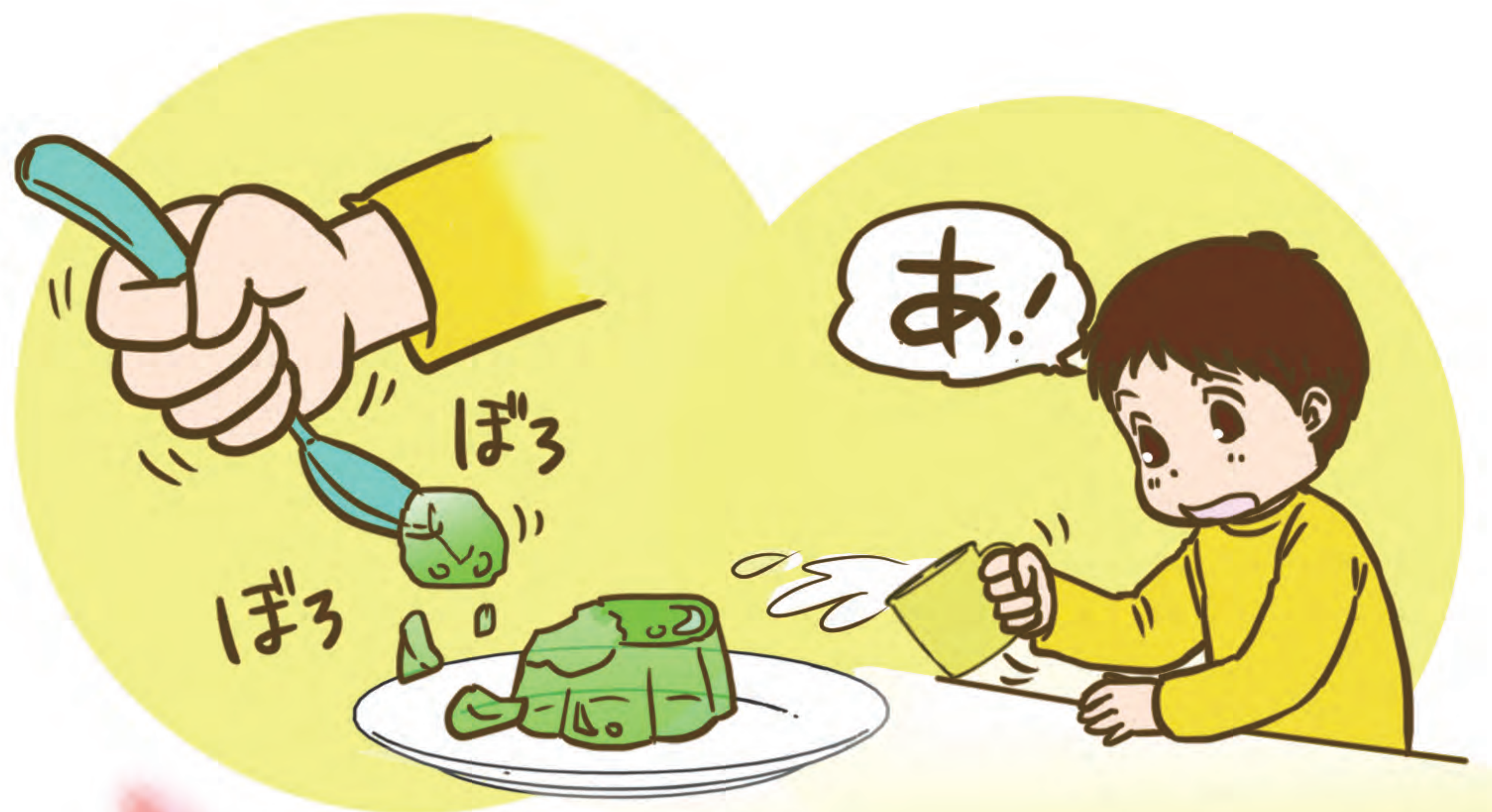
まず、Aくんの様子を観察します

Aくん、
滑り台で遊んでみようか

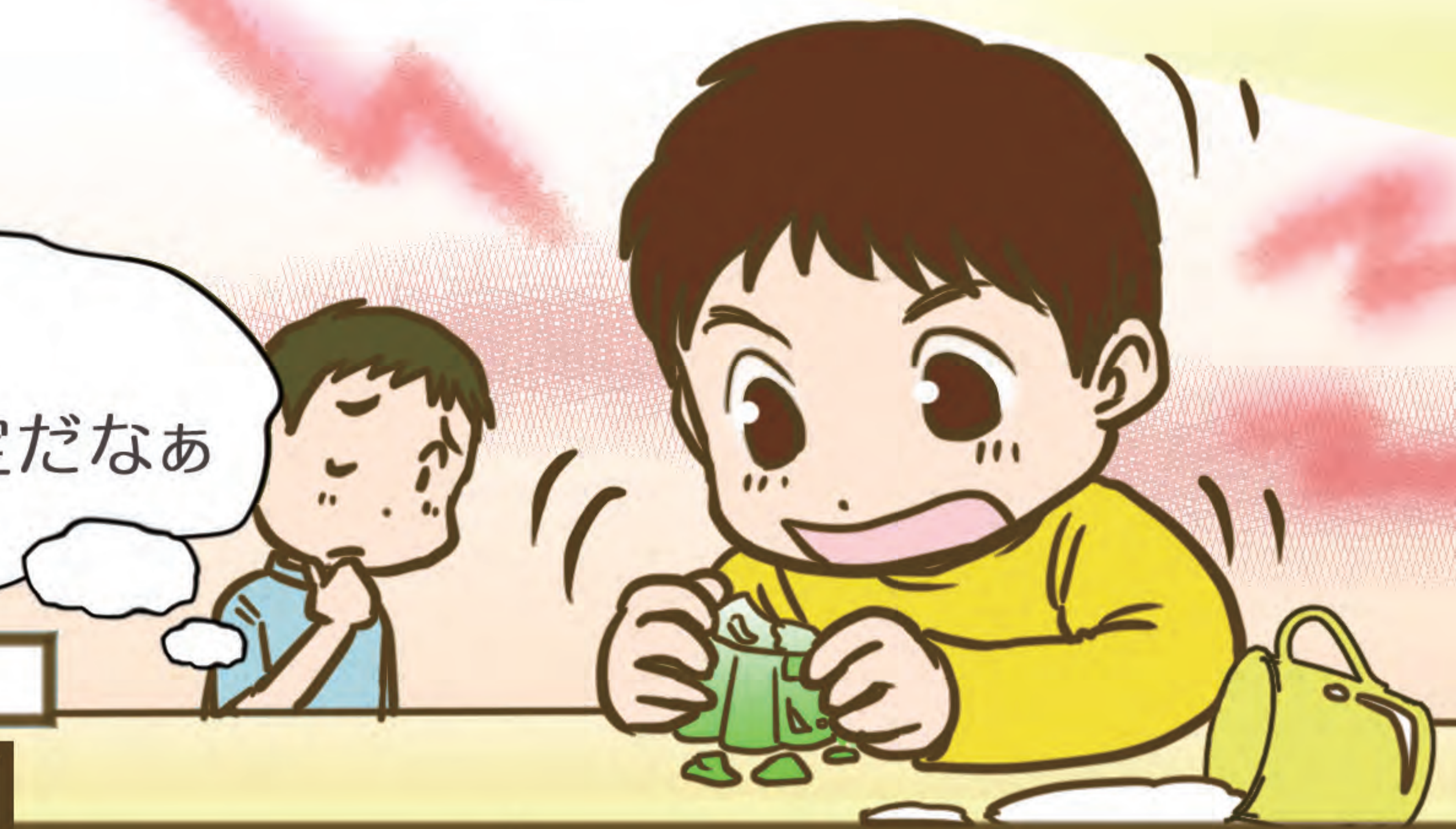
あっ!

バランスを取ることが苦手で
いつもハラハラします
夢中になると、
周りも見えなくなるようで...

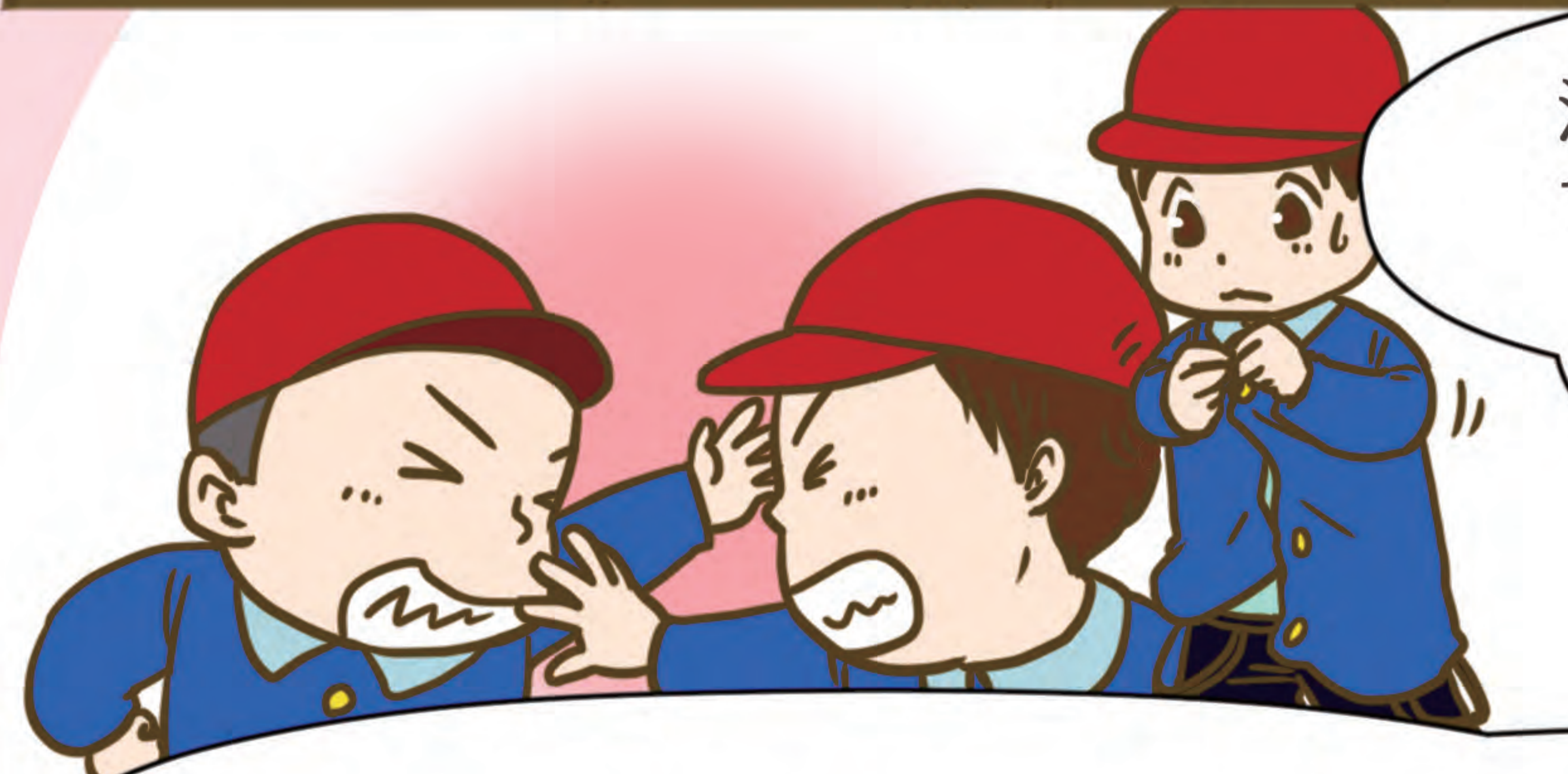
その後もトランポリンやブランコなど
いろんな遊具で遊びましたが、こけたり、
ぶつかりそうになったりと目の離せない状態でした



うーん…余計な力が入ってて
スプーンやコップの持ち方が不安定だなあ



家でもこんな感じで、
フォークもうまく使えないから食べこぼすし、
結局は手で食べることが多いです



洋服もボタンやファスナーは一人で
できないので、手伝わないといけません
保育園でも、お友だちと同じようにできないことが
あるので、仲良く遊ぶことが難しいみたいです

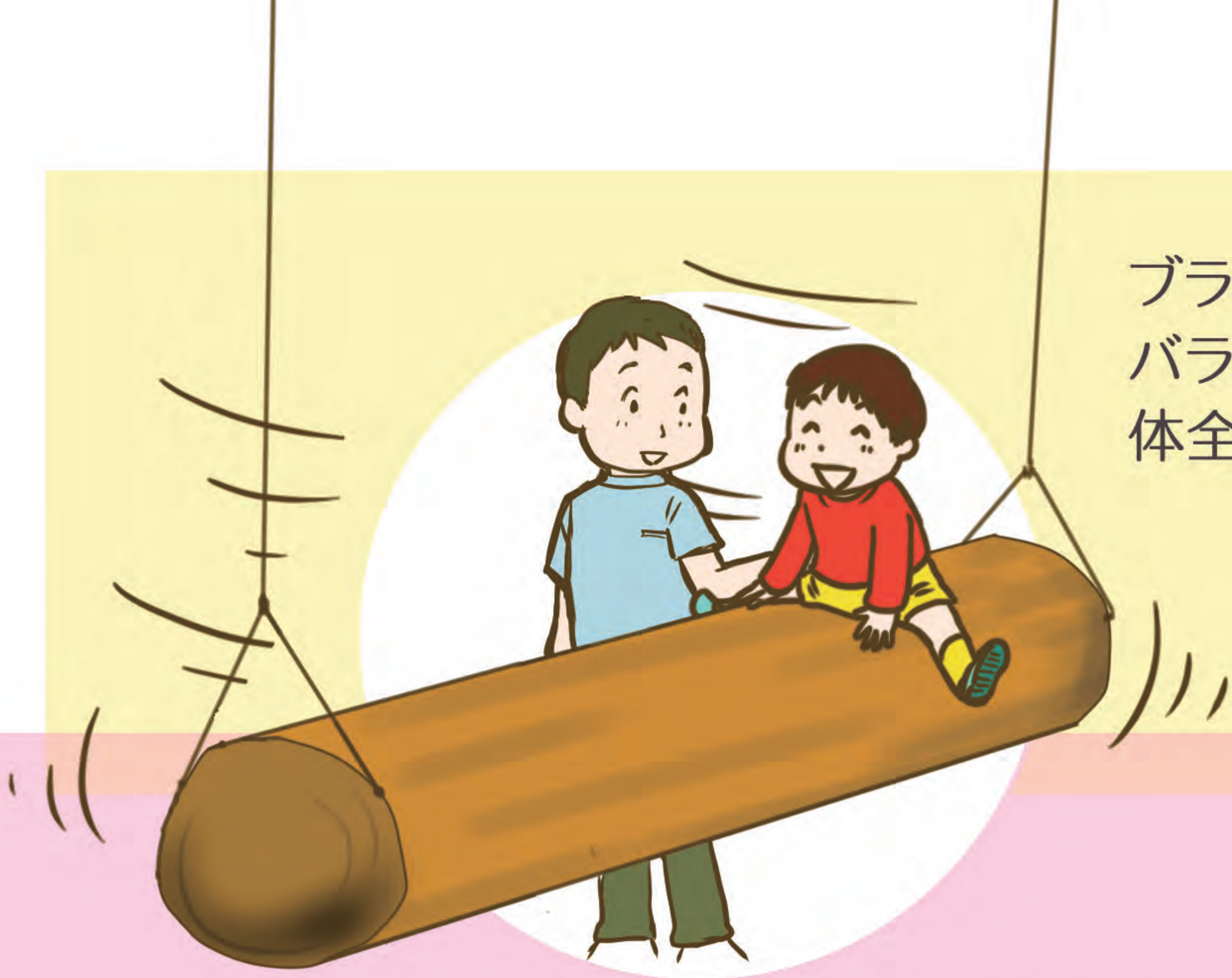
このくらいの年齢であれば、うまくできない子も中にはいますが、
Aくんの場合は指先の細かい動きだけでなく全身を使う遊びも苦手のようなので

実は全身の動きと指先の動きは深い関係があるんです
まずは全身を使った遊びで
体をうまく使う練習をしていきましょう

お願いします



ブランコやトランポリンなどで全身を使った運動を行い、
バランスの取り方や力の入れ方など
体全体の使い方を学習していきました



そのほかにも、工作やビーズ通し、ゲームなどをとおして
道具の使い方や指先の細かい動き、
両手を一緒に動かしていくことを練習しました

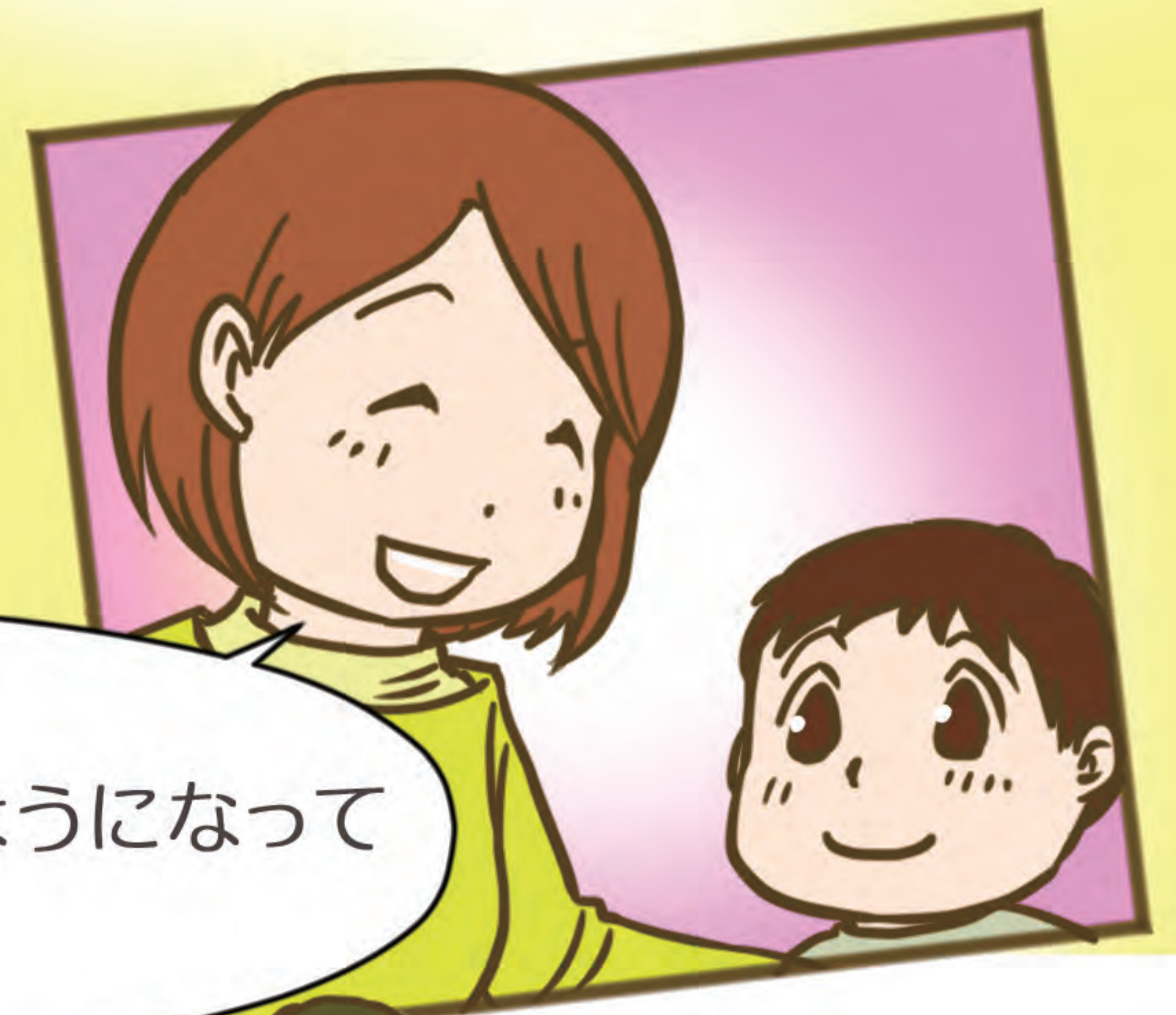
これらのことを繰り返し行っていくうちに、
Aくんは苦手だったことが少しずつ上手になっていきました



ボタンなどの更衣動作をイメージして、
貯金箱に大小様々なコインを入れたり、
小麦粉粘土からおはじきを取りだす遊び



そして、洋服のボタンも一人で
とめることができるようになりました



最近では、プリンやカステラを、
スプーンやフォークで上手に食べられるようになって
手づかみや食べこぼしも減ってきました

1年後……

5歳になったAくんは小学校入学に備えて、
字を書く練習を始めました

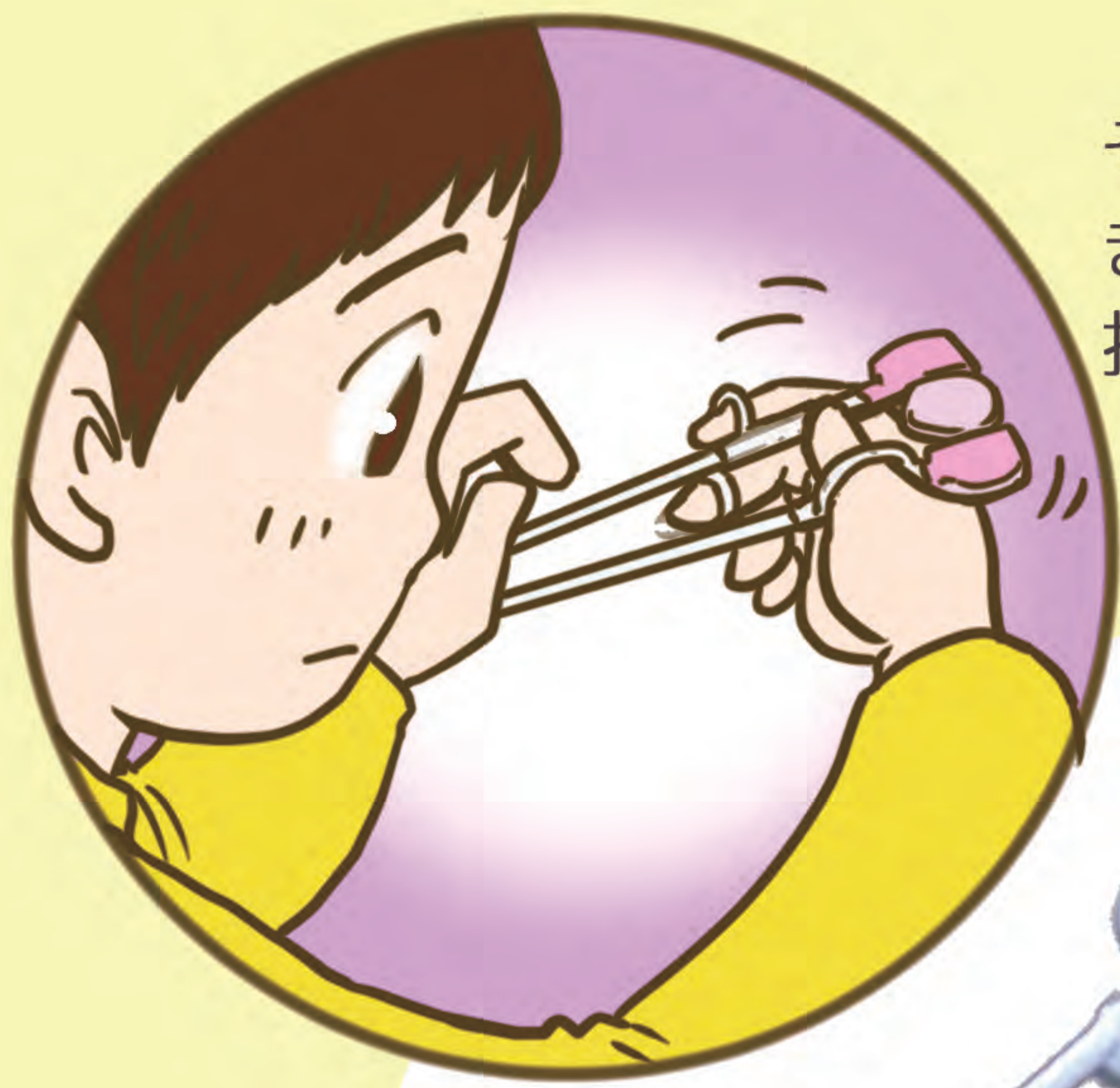


はじめのうちは鉛筆を強く握りこんで持っていましたが、
鉛筆の太さやグリップなど少し道具を工夫し
握り方を練習することで、力を抜いて字を書けるようになりました



細かく鉛筆を動かすことができるようになり、
筆圧も安定し、線もぶれずに
書けるようになりました





それから、お箸の練習も取り入れました
 まずは、指にお箸を固定できるリングのついた箸から始め、
 指先を細かく動かす練習をしました

箸を変えていき少しずつステップアップ



リング付き箸




ばね箸




お箸にゴム+ビーズを付けたもの





作業療法で練習した箸使いや
文字書きを家や保育園でも
チャレンジしてみました
上手にお箸が使えましたよ!

この前公園に行ったときには、
「ママ!見て見て!!」と楽しそうでした
私も少し遠くから
見守ることができるようになりました



保育園でも、先生がたくさん褒めてくれるので
毎日行くのが楽しみのようです

まだお友達と一緒に遊ぶことは少ないですが、
順番を守ったり、おもちゃの貸し借りをしたりと
我慢ができるようになりました

前よりもずいぶんいろいろなことが
できるようになってきたAくん
来年は、いよいよ小学校へ入学します

今後、作業療法では、手先を使った細かい作業や
体全体を使う活動の練習だけでなく
学校生活に合わせて、
授業中席を立たずに集中して取り組むことや

集団の中でお友だちと
うまくコミュニケーションがとれるよう練習し、
将来の生活につなげていきます



おわり

小児期の作業療法では、一人ひとりのお子さんの困っている様子や状況を様々な方向から分析し、課題設定や訓練を行っていきます。また、目の前の課題だけでなく、将来の課題も見据えて、生活に必要な能力を「遊び」を通して獲得することを目指します。お子さんが楽しみながらできることを増やしていくことを大切にし、それぞれの成長に合わせた支援を行います。